

第1次府中市公共施設マネジメント推進プランに関する意見交換会 開催結果

1 開催概要

	開催日時（各日120分）	場所	参加者数
1	平成26年6月22日（日） 午後2時	中央文化センター 第1講堂	8名
2	6月28日（土） 午後6時	西府文化センター 講堂	4名
3	7月 9日（水） 午後6時30分	白糸台文化センター 講堂	5名
		計3か所	17名

2 参加者からの主な質問・意見及び市の説明（意見のみの場合などは市の説明欄は斜線で表記）

※実施順

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
1	中央文化センター	市として、ルミエール府中以外の施設にPFIの手法を採用することは考えていないのか。	PFI方式は、一般的には施設を整備する際に採用する手法であり、メリットやデメリットを踏まえ判断していく必要がある。なお、現時点で、この手法を採用すると決めている施設はない。
2	中央文化センター	美術館を直営ではなく、民間事業などに任せていく考えはないのか。	美術館については、地域に根差し、独自性を持った美術館として今後更に発展していくため、どのような管理運営の手法が適しているのかということ、運営協議会などで検討した結果、直営が望ましいという検討結果が出ている。ただし、当然改善すべき面もあるので、今後の状況次第では、改めて管理運営の手法を検討する必要があるとも考えている。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
3	中央文化センター	府中グリーンプラザや府中の森芸術劇場の運営及び管理の状態が悪い。受付の対応や企画の質などについてである。指定管理者は、言われた内容をこなせば良いと考えているように感じる。	
4	中央文化センター	資料では、市民1人当たりの延床面積は、2.54㎡とあるが、以前の資料では別の数字が示されていた。第6次総合計画では、平成29年度まで現状値を維持するという目標も掲げられているので、その現状値とはどの数字か明確にしてほしい。	市民1人当たり2.54㎡という数字は、平成24年度末時点の値である。一方、第6次府中市総合計画前期基本計画では、平成23年度末の値である2.51㎡を現状値として定めているので、平成29年度末の目標値も2.51㎡ということになる。
5	中央文化センター	市民1人当たりの延床面積2.51㎡というのは、難しいのではないか。	確かに簡単ではないが、単に市民1人当たりの延床面積が少なければ良い、多ければ悪いという議論ではなく、市の魅力であるこれだけの公共施設について、今後の人口や財政の状況を踏まえ、将来の市民のために今何をすべきなのかという議論を行っていきたいと考えている。
6	中央文化センター	南口再開発事業のビルの中にもホールが整備されるようだが、稼働率の低いホールを備えているグリーンプラザを廃止した場合や、施設の集約をした場合の効果額が明らかになっていない。	推進プラン案は、今後議論を重ねる材料として施設の検討の方向性やスケジュールを示すものなので、廃止するかどうかもまだ決まっていない。今後の具体的な検討の段階において、それら資料を提示し、検討していきたい。
7	中央文化センター	新たに府中駅前にホールが整備されるということであるが、それは府中グリーンプラザの廃止が前提として計画されているものなのか。	新たなホールの計画については、府中グリーンプラザの廃止を前提としたものではなく、それぞれ異なる目的を持ったホールとして位置付け、計画したものである。しかし、市内にはこれらホールのほかにも、各所にホール機能が存在している状況であり、ここで改めて、公共施設マネジメントの視点にもあるように、建物ではなく機能に着目してサービスの提供が可能かどうか、検討していくものである。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
8	中央文化センター	新たに施設を整備するということは市の保有する延床面積が増加するということである。増加させないためには、新たに整備する施設の中に既存の施設の機能を入れることであり、公共施設マネジメントにはそのような取組が求められている。	
9	中央文化センター	府中市はどのような考えを持ってまちづくりをするのかという点に、市民としては関心がある。公共施設のみ着目するのではなく、高齢化や少子化に対応できる施設はどのような施設かという議論があるべき。	府中市全体のまちづくりとしては、第6次総合計画において「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」という都市像を掲げている。そして、その実現に向け、高齢者や子育てなどの各種個別計画が作られており、必要な公共施設、機能はどのようなものかということも示している。そのうえで、厳しい財政状況のなか、安全で良好な施設、機能を提供できるよう、公共施設マネジメントの取組が下支えするという体系でまちづくりは進んでいる。公共施設マネジメントの取組だけで、まちづくりに関する様々な課題を解決していくということではない。
10	中央文化センター	実際に施設を利用している市民の意見の吸い上げに乏しく、取組が上から目線に感じられる。各施設の方針は出しているが、税金を出して施設を利用している市民の意向の反映がなく、「誰のためにやっているのか」という疑問が残る。	今後の検討をどのように進めていくのかということを示すものが、今回の推進プランであり、施設を今後どうするかという方針はこれから策定していく段階である。その検討に当たっては、施設の利用者、また利用していない方、様々な方から意見をいただきながら進めていく。
11	中央文化センター	今まで持っていた資産が負担となっているのだから、それらを活用することで負担軽減を図ることが、公共施設マネジメントの考えるべき取組である。	

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
12	中央文化センター	本来であれば公共施設マネジメントは、総合計画や都市計画マスタープランの下位計画という位置付けと考えられるが、より具体性の高い公共施設マネジメントの取組から上位計画に対して府中市としての方向性を示せるようにして欲しい。	
13	中央文化センター	前回の意見交換会から1か月程度しか経過していないが、5月には推進プラン（案）を出しており、内容は様々な施設についての廃止や譲渡や指定管理者制度導入等の検討方針が示されている。これらの内容は今年、来年、4年以内には決定していくと思うが、前回はまだ何も決まっていないというような答えが多かったが、4月の時点で答えは出ているのではないだろうか。	各施設について、処分や譲渡といった今後の検討の方向性、テーマについては、今回初めて出したものではなく、前回の意見交換会や、4月に策定した「府中市公共施設の最適化に向けた検討の方向性」でお示ししていたものである。前回の意見交換会の場で、何も決まっていないと申し上げたのは、それが実際に各施設の方針として決定するかどうかは、今後の検討次第だからであり、それは推進プラン（案）を作成した現段階でも変わっていない。
14	中央文化センター	新聞では、府中グリーンプラザが処分されると書いてあったが、どういうことか。	確かにタイトルには処分という文字があったが、内容を読んでいただければ、今回の推進プラン（案）の内容と同様に、平成27年度に方針を示すという内容だということをご理解いただければと思う。
15	中央文化センター	マスコミの取り上げ方というものがあるのかもしれないが、推進プラン（案）の中では、府中グリーンプラザだけでなく、保育所等の子育て支援施設も検討イメージとして7番の図が示されており、実際に廃止となる可能性もある。現段階では7番の方向性で検討することが決まっているということか。	建物の老朽化の状況等も踏まえ、市民の方々と検討するテーマとしてまずは、9つに分けた検討イメージの中で7番の内容を設定している。設定したテーマについて検討を行ったうえで、最終的に7番の形で結論がまとまるのか、それとも、他の形となるのかは今後の検討次第である。なお、保育所などのように、現状の欄にも記載しているが、これまで施設に関する検討を進めてきた施設の場合は、取組内容が他の施設と異なる場合がある。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
16	中央文化センター	施設の廃止等により、自分の住んでいるまちの環境が変わってしまうことは不安であるが、高齢者問題のように社会の実情に合った施設整備がなされれば、更に住環境が良くなる可能性もある。ただし、今回説明して欲しいポイントと、市の説明がいまひとつかみ合っていないのが気になる点としてある。市としての方向性や、しっかりとしたプランを提示してもらえれば納得はできる。	各施設について、市として今後の方針が決まった段階であれば、説明もより具体的に、いただいた質問にも詳細にご回答できるのかもしれないが、現在は、これから検討を始めるという段階ということもあり、歯切れの悪い形となってしまったかもしれない。ただし、何か方針が決まってからではなく、その前の段階から関心を持っていただけるようこのような意見交換の場を設けること、そして具体的な検討に入ったらまた多くの方から意見をいただけるようにすること、このような取組の積み重ねが必要だと考えている。その結果、市としての各施設に関する方針などを定めた際には、改めて提示させていただきたい。
17	中央文化センター	検討協議会が設置されるようだが、その場に出てくる資料は素人には理解しがたく、市の思惑通りに進めるための資料が出てくると感じている。今回の意見交換会についても、開催しましたという事実作りに感じる。府中に住んでいるからにはより良い市になってほしいと思っているので、人選を含めてしっかりと検討してもらいたい。	資料作成に当たっては、理解しやすいものを意識して取り組んでいきたい。また、今回設置する検討協議会については、その検討結果だけで施設の方針を決めようというものではなく、このような意見交換会も含め、普段関心の無い方からの意見なども集められるよう、様々な手法を活用して、最終的な方針の策定につなげていきたい。結論ありきの議論ではなく、様々な立場の方の知恵を生かした形で進められるよう、人選も含めて取り組んでいく。
18	西府文化センター	府中グリーンプラザの老朽化が進んでおり、仮に民間事業者に譲渡する場合、市で老朽化した部分の修繕を行ってから渡すのか、それとも民間に渡った後に修繕となるのか。	建築後まもなく35年を迎える府中グリーンプラザについて、民間事業者に修繕を行ってもらう場合、そのコストも考慮しなくてはならない。今後の検討において、施設に関するニーズや民間事業者の意向などを調べ、実現性の高い手法は何か、精査していく必要がある。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
19	西府文化センター	市の方がより明確に方向性を示し、遠慮なくリーダーシップを取ってよい。府中市は、府中グリーンプラザ、中央文化センター、生涯学習センターと類似した用途の施設を抱えている。府中グリーンプラザの売却も1つの方法だし、維持していきたいというのなら、貸館に徹するぐらい目的をハッキリとした方がよい。	
20	西府文化センター	ただ市民の意見を汲んでいくというだけでは、賛成する人、反対する人が多く出てくるだけで、スピード感に欠ける取組になってしまう。	
21	西府文化センター	府中市には数多くの文化センターがあり、社会教育登録団体が無料で活動できる環境をととても魅力的に感じている。そのような環境があるため、高齢者が趣味を見つけていきいきと生活できている。建物やその機能だけでなく、社会教育登録団体という制度の行方も心配である。	社会教育登録団体に関しては、非常に多くの団体が登録しており、それらの団体が文化センターを拠点に活動している。公共施設マネジメントの取組の結果、社会教育登録団体という制度がなくなるといったことは想定していない。ただし、使用料の見直しについての議論は、施設の最適化と平行して検討を進めている。全ての団体活動を有料にするということではないが、これだけ多くの団体が活動されているなかで、本当に無料ということによいのか、改めて議論していく必要がある。
22	西府文化センター	社会教育登録団体は10年も活動していれば、実際に活動しているメンバーはほとんど変わってしまうだろう。最初の10年は無料という制度があり、またきちんとメンバー構成等をチェックしたうえで更にまた10年は無料という制度であれば問題はないと思うが、ただ単に継続的に無料で活動できるというには良くないのではないか。	

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
23	白糸台 文化センター	文化センターを使用しているが、施設に関して、市民の側からみれば当然優先順位があると思う。説明の中に福祉の話もあったが、今後ますます必要となってくるものもあるので、お金の使い方というものを考え直す必要がある。	
24	白糸台 文化センター	学童クラブについて、指定管理者制度はあくまでも選択肢の1つであり、既存の学童クラブは残るという解釈でよいか。	利用状況などから判断して、施設数を減らすということは現在考えていない。また、指定管理者制度については、今後のニーズや利用者の状況等を見極めたうえで、現在の運営方法では対応が困難な場合などには、検討すべき選択肢の1つとして考えている。
25	白糸台 文化センター	指定管理者制度の検討対象となる学童クラブは、今後新たに整備される施設のみということか。また、新たに施設を整備した場合も含めて、今後も全ての学童クラブが直営で運営を行っていく可能性はあるか。	新たな場所に学童クラブを整備する予定はないが、必要とされるサービスが変化するなかで、既存や新規といった施設の状況だけを捉えて、検討の対象施設とするかどうかを判断することは考えていない。また、全ての学童クラブを直営で運営していくことについては、今後の状況によっても変わってくるが、学童クラブに限らず、新たなニーズなどによる変化に対して直営で全て対応していくということは困難である。
26	白糸台 文化センター	学童クラブについて検討していくということであれば、そのプランを示してほしい。今回の推進プランは、これから市民を含めて検討していこうという市側の提起と捉えてよいか。	推進プラン（案）の中で、学童クラブについて来年度から指定管理者制度を導入することが決まっています、そのためのプランを示しているということでは決してなく、今後その検討を行っていくためのスケジュールについて記載している。推進プランの策定目的は、何かが決まってからということではなく、検討の段階から多くの市民の皆さんに関心を持っていただき、議論できる土台を作るためのものである。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
27	白糸台文化センター	新聞での報道で急に施設の「廃止」という言葉が出て驚き、今回の意見交換会に参加した。意見交換会に参加して、一緒に検討していこうという姿勢を確認ができ、少し安心した。一方で、今回はメール配信で意見交換会の存在を知ったが、知らない方もいるだろう。もっと多くの市民の方に投げかけを行って欲しい。	
28	白糸台文化センター	スポーツ施設のように、施設の種類によっては利用者が限られているものもあるだろう。そのような施設の今後については、利用者は関心があるだろうが、市民全体からすると利用されている割合が低いから廃止というような説明をされても困る。一方、市庁舎は建替えを行うということで、市庁舎の重要性を理解しているので反対するわけではないが、全施設を見渡したときに、なぜ市庁舎は建替えるのかという思いはある。	各施設で利用する人、また市民生活における重要度は異なるので、全ての施設を同様の検討期間で結論を出すということではなく、各施設の状況に応じた検討期間を設けて検討を進めていく。 現庁舎の抱える課題は老朽化や耐震性能の欠如、分散化、狭あい化など様々あり、建設時だけでなくその後の運用時も含めた費用面や、市民サービスの面から、耐震改修ではなく、建替えが最も効果的であると判断したものである。
29	白糸台文化センター	このような参加者人数の少ない意見交換会は開催して意味があるのか。少ない人数でも取組を進めていくのか。	意見交換会について、多くの方がお越しいただけるよう広報を行ったが、努力が足りず少ない人数となってしまった。ただし、お越しいただいた方からご意見をいただき、それを推進プラン、また今後の取組に反映していくということについては、参加者数に関わらず必要なことであり、意味があるものと考えている。また、現在はこれから検討していくという内容をまとめた段階であり、今後具体的に検討する場面においてより多くの方にご参加いただければと考えているので、取組については着実に進めていく。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
30	白糸台 文化センター	地域ごとに文化センターがあるのだから、10～20回程度開催し、有権者の20～30%ほどの方と意見交換をしなければ話にならない。	各施設について、普段利用している方から利用されていない方まで、様々な方の意見を聞かなければならないとは考えている。ただし、それを行うタイミングは、皆さんと検討を行う内容を取りまとめたという今の段階ではなく、施設ごとに具体的な検討を行う次の段階であると考えている。また、その検討をどの程度行うのかということについても施設の特性に応じて異なるものであり、一律に定めるようなものではないと考えている。
31	白糸台 文化センター	センター方式の給食センターは効率のことしか考えてなく、最善の答えとは言えない。ずっと自校式の給食室の設置を求めてきた。今回センター方式の施設を整備するために100億近くの費用がかかると伺っているが、そのような資金があれば自校式の実現も可能であると考えている。市側の説明では、自校式では運営のための人件費が多くかかるということだが、生活を良くして欲しいと思って納めている税金を使うべきではないか。	
32	白糸台 文化センター	推進プラン（案）の中で、8ページに検討イメージというものがあり、各施設のページではそれぞれの検討イメージ図が当てはめられているが、パブリック・コメント手続等を踏まえてこれらに変更する可能性はあるのか。	各施設について9パターンの検討イメージ図を当てはめているが、この部分については、平成26年4月に策定した「府中市公共施設の最適化に向けた検討の方向性」の中で既に定めているものであり、今回のパブリック・コメント手続等を踏まえて見直すものではない。なお、今回作成した推進プラン（案）において新たに設定したものは、短期のスケジュールやモデル事業等についてである。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
33	白糸台 文化センター	検討の方向性が決まっているということは、各施設についての答えは既に出ているということではないのか。	検討の方向性はあくまでも市民の皆さんと議論を行っていききっかけとなるものであり、検討の方向性が処分＝処分の決定というような答えが決まったものではない。単に、施設についての検討を始めようとしても何から検討していいかわからず、議論が煮詰まらなとを考え、検討をするためのテーマとして「処分」や「現状維持」といった9つの検討パターンを掲げている。
34	白糸台 文化センター	検討の方向性を示し、今後どのように検討を重ねていくのか。	検討時期については、推進プラン（案）の中で、スケジュールを4年間に区切って示している。検討を行ったり、意見を聞いたりする方々については、関係者が施設によって異なるため、施設所管課と相談しながら決めていく。推進プラン（案）の案が取れ次第、検討を進めていく。
35	白糸台 文化センター	今回の資料に関して、一元的に施設を考えるとという点では参考になったが、各施設についての情報不足を感じる点もある。興味のある施設については目を通して内容が理解できるようになっているが、関心のない施設や知識の及ばない施設に関しては分かりにくいように感じた。なぜこのような検討の方向性になったのか説明して欲しい。	各施設は様々な事業を実施しているのだが、それらも同じ資料としてまとめてしまうと、非常に厚い資料になってしまう恐れがある。保育所などは例外だが、ほとんどの施設の検討はまさにこれから始まるといった段階で、多くの方に手に取っていただき、読んでいただくためには、薄い資料でかつ内容の濃いものを作成する必要があった。これらのことから、1施設につき原則見開き2ページで今後の見通しを記載することで、興味のある施設だけでも目を通してもらえるように取りまとめた。そのため情報が足りないといった意見は出てしまうかもしれないが、それについては具体的な議論を行う段階で、より詳細なデータを提示しながら進めていく。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
36	白糸台 文化センター	学校を一般に開放するというのは、子どもを持つ身としては心配である。もちろん子どもに温かい目を向けてくださる方々はいると思うが、不審者情報が多く出ていると、一般開放というのは不安要素である。	子どもたちの授業時間と一緒に、一般の方が施設を使うものではない。現在の校庭などの一般開放と同様に、教育施設としての学校利用を前提としたうえで、空いている時期、時間帯に更なる活用を図り、地域の施設としての役割を高めていく取組である。
37	白糸台 文化センター	学校のプールと地域プールは役割が全く異なっている。学校プールを一般の方に開放した場合、それでは夏休みの間に泳げない子を指導する機会を奪ってしまうのではないか。また、学校の先生が水泳を指導するという点で、教育面でも大きな役割を学校プールは担っているため、プールの一般開放については、先生方とも十分に協議したうえでなければ検討の方向性として設定することはおかしい。	学校プールと一般のプールの役割は違うという考え方は理解できるが、他市の動向を見本とすることなく、検討の幅を狭めてはならない。これまで府中市で実施していないことであっても、新たな視点を持って様々な検討を重ねる時期であると考えている。また、事前に協議をしてからでないとも検討もできないということではなく、検討段階から関係者も含め多くの方々にその取組を知っていただくため、検討の方向性を策定した。
38	白糸台 文化センター	府中市と言えば野球場と言われるように、他市との施設の役割分担をするという考え方があっても良いのではないか。	これまでの施設整備というものは、府中市に限らず、様々な用途の施設を各自治体独自で整備していくという考え方が一般的であり、府中市でも多くの施設を整備してきた。現在も多くの他市の方に利用いただいているが、一方で、それら施設の維持管理には非常に多くの費用がかかっている。今後、他市と手を組む広域連携の考え方がますます重要となると考えているので、推進プラン（案）の中では、大規模施設の長期的な方向性の中で広域連携の検討についても触れている。
39	白糸台 文化センター	他の自治体でも公共施設マネジメントは行われていると思うが、府中市のこれまでのマネジメントの進め方は、どの自治体の進め方を参考にしているのか。	取組の参考にしている自治体の1つとして、さいたま市がある。ただし、各自治体の取組背景や状況は様々であり、手探りで取組を行っている状況である。また、各自治体の個別の取組事例を参考にすることも多々ある。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
40	白糸台 文化センター	新しい施設の運営を民間にお願いする場合、地域住民と良好な関係性を築くことは困難だと思うため、私は学童クラブを含め、施設の運営を民間に任せることに反対している。既存の施設については、地域住民や事業者の方の理解を少しずつ得てきているからその場所に存在していただけるのであって、簡単に民間譲渡を進めたり、指定管理を導入したりすることは、地域住民との問題を引き起こしてしまう可能性があり、間違っている。	
41	白糸台 文化センター	全ての取組は公共施設マネジメント白書の内容に基づいて行われていると思うが、取組の良し悪しは別にして、白書の内容をしっかりと説明することが大切であると思う。白書内で各施設についてカルテを作成していると思うが、そのカルテについて詳しく説明しなければ、これから提供されるであろう施設の情報についても唐突に出てきたという印象を持ってしまう。今回の意見交換会に関しても白書の概要版等を配布していれば、もう少し取組についての理解を得られたと思うため、白書をしっかりと活用して欲しい。	
42	白糸台 文化センター	推進プラン（案）が最終的に取りまとめられた後は、4年間のスケジュールに基づいて進めていくことになると思うが、施設の所管課はそれ以降どう関わっていくのか。	推進プランの策定後、建築施設課から各所管課へ、今後の取組スケジュールの作成を依頼し、具体的な検討方法を決めていく予定である。それらは、市民の方々にも公表する予定である。